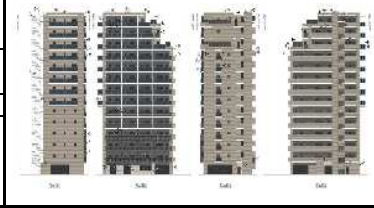


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)春日井市八光町一丁目計画	階数	地上14階
建設地	愛知県春日井市八光町一丁目18番1、18番2、19番	構造	RC造
用途地域	***** 地区*****	平均居住人員	170 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年10月 予定	評価の実施日	2026年3月3日
敷地面積	759 m ²	作成者	澤田 勉
建築面積	369 m ²	確認日	2026年3月4日
延床面積	3,498 m ²	確認者	川本



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.7 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100%</p> <p>②建築物の取組み: 82%</p> <p>③上記+②以外のオンサイト手法: 82%</p> <p>④上記+オフサイト手法: 82%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Q のスコア = 3.3</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.9</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.5</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2</p>

3 重点項目		
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.7</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>28.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>	
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)春日井市八光町一丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数	重み係数	全体
	重点項目									
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		3.0	3.0	0.50		3.0	0.50			3.3
1.2 遮音		0.5	5.0	0.50		3.6	0.50			3.9
1 開口部遮音性能		-	5.0	1.00	T2を使用	5.0	0.30			3.3
2 界壁遮音性能		-	3.0	-		3.0	0.30			3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-		3.0	0.20			3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-		3.0	0.20			3.0
1.3 吸音		-	3.0	-		3.0	-			3.0
2 温熱環境										
2.1 室温制御		0.3	3.0	0.35		5.0	0.35			4.7
1 室温		0.5	3.0	0.50		5.0	0.50			3.0
2 外皮性能		3.0	3.0	0.63	断熱等級5の基準を満たす	-	-			3.0
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.38		5.0	1.00			3.0
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.20		-	-			3.0
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.30		-	-			3.0
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		0.2	3.0	0.25		3.3	0.25			3.2
1 昼光率		0.3	3.0	0.30		3.0	0.30			3.0
2 方位別開口		3.0	3.0	0.60		3.0	0.50			3.0
3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40		3.0	0.20			3.0
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30	カーテンとバルコニー庇を設置	4.0	0.30			3.0
1 昼光制御		5.0	3.0	1.00		4.0	1.00			3.0
3.3 照度		3.0	3.0	0.15		3.0	0.15			3.0
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25		3.0	0.25			3.0
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		0.2	3.6	0.25		3.7	0.25			3.7
1 化学汚染物質		0.6	4.0	0.60	F☆☆☆☆部材を使用	4.0	0.63			3.0
4.2 換気		3.0	4.0	1.00		4.0	1.00			3.0
1 換気量		0.4	3.0	0.40	窓を積極的に設置	3.3	0.38			3.0
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33			3.0
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33			3.0
4.3 運用管理		-	-	-		-	-			-
1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	-		-	-			3.0
2 喫煙の制御		3.0	3.0	-		-	-			3.0
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.1	0.40		4.2	0.40			4.0
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	各社光プランに対応	5.0	0.60			3.0
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-		5.0	1.00			3.0
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00		-	-			3.0
1.2 心理性・快適性		0.3	3.0	0.30		3.0	0.30			3.0
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	3.0	-		3.0	0.50			3.0
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	-		-	-			3.0
3 内装計画		3.0	3.0	1.00		3.0	0.50			3.0
1.3 維持管理		0.3	3.5	0.30		-	-			3.0
1 維持管理に配慮した設計		3.0	4.0	0.50	維持管理方法が大きく異なる床材を、ほぼ近接させてない	-	-			3.0
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50		-	-			3.0
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.0	0.31		-	-			3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48		-	-			3.0
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80		-	-			3.0
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.3	0.33		-	-			3.0
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23		-	-			3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23		-	-			3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09		-	-			3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08		-	-			3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	給水・給湯に架橋ポリエチレン管、汚水雑排にVPを採用	-	-			3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23		-	-			3.0
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19		-	-			3.0
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20		-	-			3.0
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20		-	-			3.0
3 電気設備		3.0	3.0	0.20		-	-			3.0
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20		-	-			3.0
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20		-	-			3.0

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.6	3.6	0.50	
1 階高のゆとり			階高2.9m以上	3.0	-		4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			②	1.0	3.0	1.00		-	
1 空調配管の更新性				-	3.0	0.17		-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22		-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-			-	3.6
LR1 エネルギー					-	0.40		-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.77	3.0	5.0	0.33		-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17		-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.77	3.0	5.0	0.33		-	5.0
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17		-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-		-	-
4.1 モニタリング				3.0	3.0	-		-	-
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	-		-	-
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00		-	-
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50		-	-
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50		-	-
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	3.1
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水			節水型便座、水洗を使用	3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	1.00		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	-		-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63		-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			洗面所にフリースペースを採用	3.0	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	3.2
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率82%	-	3.7	0.33		3.7
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			独自	-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			独自	-	3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音			独自	-	3.0	0.33		-	
2 振動			独自	-	3.0	0.33		-	
3 悪臭				-	3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-		-	
3 日照阻害の抑制				-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

【仮称】春日井市八光町一丁目計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:28.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)春日井市八光町一丁目計画

計画上の配慮事項	
総合	省エネルギー(断熱性能、LOW-Eガラス採用等)により環境に配慮した。
Q1 室内環境	開口部を大きく取り十分な採光を確保した。
Q2 サービス性能	住戸の階高を2.91m以上とし空間にゆとりを持たせた。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境に配慮し敷地内に駐車場を確保した。
LR1 エネルギー	共用部分の照明器具をLEDを使用し消費電力を抑えた。
LR2 資源・マテリアル	節水型便座や水栓を採用した。
LR3 敷地外環境	駐車、駐輪スペースを敷地内に確保した。
その他	